

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
日本工学院八王子専門学校		昭和62年3月27日		前野 一夫		〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404番地1他 (電話) 042-637-3111		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人片柳学園		平成25年3月1日		千葉 茂		〒144-8650 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111		
分野	認定課程名		認定学科名		専門士	高度専門士		
工業	工科技術専門課程		建築学科		-	平成23年文部科学省告示第170号		
学科の目的	建築・住宅・インテリアの専門家の育成をめざし、それぞれの分野に関する総合的な知識、専門的な技術、技術者として必要な理論等について学び、卒業後に最短2年間の実務経験で一級建築士に合格ができるよう専門性の高い知識と高度な技術を身に付けることを目的としている。さらに放送大学との併修制度により教養学を履修することで学士の資格が取得可能である。また、企業連携課題への取り組みやBIM技術の習得に力を入れる。							
認定年月日	平成28年2月19日							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義		演習	実習	実験	実技
4年	昼間	3570時間	2280時間			3840時間		
		単位時間						
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数		総教員数
160人		281人		2人	4人	16人		20人
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日			成績評価	■成績表：有 ■成績評価の基準・方法 授業日数の4分の3以上出席し試験を受験する。 S：90点以上 A：80～90点 B：70～79点 C：60～69点 D：59点以下は不合格 P：単位認定			
長期休み	■学年始：4月1日～ ■夏季：7月21日～8月31日 ■冬季：12月23日～1月9日 ■学年末：3月18日～3月31日			卒業・進級条件	進級要件 ①各学年の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること 卒業要件 ①卒業年次の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること			
学修支援等	■クラス担任制：有 ■個別相談・指導等の対応 当日中に担任から電話・Eメール等で連絡することを基本とし、状況に応じて、数日欠席が続いた時点で保護者に連絡するなどの指導をしている。			課外活動	■課外活動の種類 卒業作品展示会、ボランティア活動、体育祭、学園祭、ソフトウェアベンダーなどが主催する建築関連のイベント、全国専門学校建築教育連絡協議会卒業作品展示会 ■サークル活動：有			
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) 株式会社熊谷組 株式会社飯田産業 株式会社三栄建築設計 株式会社長谷工リフォーム 大東建託株式会社			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)			
	■就職指導内容 業界研究、インターンシップ等を通して建設業界の理解を深め、就職模擬試験、模擬面接を実施している。担任による履歴書添削、進路個別相談を複数回実施することで、個人の希望に沿った形で進路決定できるよう指導している。				表			
	■卒業者数 59人				表			
	■就職希望者数 55人				表			
	■就職者数 54人				表			
	■就職率 98.2%				表			
■卒業者に占める就職者の割合 91.5%			表					
■その他 ・進学者数：2人 首都大学東京大学院 1人 靴デザイン学校 1人 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)			■自由記述欄 毎日新聞主催 第3回学生住宅デザインコンテスト作品集 入選 放送大学学士(教養学)取得者 30人					

中途退学 の現状	■中途退学者 12 名 ■中退率 4.6 % (休学者7名含まず) 平成29年4月1日時点において、在学者263名（平成29年4月1日入学者を含む） 平成30年3月31日時点において、在学者244名（平成30年3月31日卒業者を含む） ■中途退学の主な理由 経済的問題（学費支払困難）、進路変更（他分野就職）等
	■中退防止・中退者支援のための取組 担任と科長による面談。懇談会・電話等による保護者との情報共有。 担任による指導のほか経済面では学費・奨学金相談窓口を設け、学生生活においてカウンセリングルーム等を設け個々の学生に適した指導・助言・相談等を行っている。また、休学者にも復学（転科等）の指導・助言・相談も行っている。
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有 無 ・片柳学園入学金免除制度・片柳学園創立70周年記念奨学金制度・再入学優遇制度・片柳学園奨学金制度・留学生特別給付制度 ・ミュージシャン特待生・スポーツ特待生・IT資格特待生 ■専門実践教育訓練給付： 給付対象・非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価： 有 無 特定非営利活動法人 私立専門学校等評価研究機構、平成25年度(平成26年3月31日) 受審 http://www.neec.ac.jp/education/accreditation/
当該学科の ホームページ URL	http://www.neec.ac.jp/department/

(留意事項)

1. 公表年月日（※1）

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況（※2）

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて（通知）（25文科生第596号）」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

（1）「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員（雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいいます。

※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

（2）「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う）。

（3）上記のほか、「就職者数（関連分野）」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果（※3）

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他（民間検定等）の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果（例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等）について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（１）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

企業等と連携体制を確保して、授業科目等の開設、その他の教育課程を編成する。そのため、校内の実習設備や施設等を活用し、派遣された講師による年間を通じた定期的な指導や評価を受けることができる体制をとることが可能な企業等を建設業界より選定している。

（２）教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、校長を委員長とし、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各３名以上を委員として構成する。

本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、校長、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

（３）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
岡本 賢	一般社団法人 日本建築美術工芸協会 会長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日（1年）	①
藤本 和典	株式会社ヤマダ・エスバイエルホーム 執行役員	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日（1年）	③
出口 賢一	株式会社久米設計 業務本部企画部主管	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日（1年）	③
菊池 栄光	株式会社田中建設 総務部次長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日（1年）	③
柴田 隼一郎	株式会社丹青TDC 経営管理部	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日（1年）	③
前野 一夫	日本工学院八王子専門学校 校長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日（1年）	
山野 大星	日本工学院八王子専門学校 副校長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日（1年）	
清水 憲一	日本工学院八王子専門学校 カレッジ長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日（1年）	
上田 耕作	日本工学院八王子専門学校 科長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日（1年）	
小林 猛	日本工学院八王子専門学校 主任	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日（1年）	
荒井 哲子	日本工学院八王子専門学校 教育・学生支援部課長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日（1年）	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（４）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

（年間の開催数及び開催時期）

年２回 （３月・９月）

（開催日時（実績））

第１回 平成29年8月31日 13：00～15：00

第２回 平成30年3月13日 13：00～15：00

（５）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

BIM教育に併行して、プラスアルファのテクノロジー科目（映像、プログラミング、語学等）を導入する意見が出され、今後のカリキュラムに反映していくことを検討する。また、インターンシップについて、今後は必修科目とする上で実施内容や実施期間、企業選定方法など意見が出され、今後、学科にて更に検討していく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係		
（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 建築設計に必要な広範な知識、実務に必要とされる設計技法、建築現場における実務的訓練等についての業界の情報等に基づき、課題設定、実習計画を策定している。また、実践的な課題制作を行うために、建築業界等に精通し、専門的かつ実践的な知識、技術を持った講師派遣等の協力が得られることが可能な企業を選定している。企業等との打合せにより、企業等のニーズに沿った実習内容や評価方法を設定し、目標を明確にする。また、実践的な課題制作を行うために、建築業界等に精通し、専門的かつ実践的な知識、技術を持った講師派遣等の協力が得られることが可能な企業を選定している。企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。		
（2）実習・演習等における企業等との連携内容 企業等との打合せにより、企業等のニーズに沿った実習内容や評価方法を設定し、目標を明確にする。企業等からの派遣講師による実践的な実習・演習を実施後、企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。		
（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
設計計画1	設計、環境工学、CAD・CGの各授業を関連させて学習することで、各授業の関連付けを行うことで、理解度の向上を図る。また、環境工学などは教科書の図等利用していたが、BIMのシミュレーションを活用し、温熱環境や風の流れを可視化する。	有限会社 リノベイトダブリュ
建築CAD3	CAD/CGソフトを使用し、建築の三次元モデルで作成した空間を使ったシミュレーションや形態の検討を行います。また最新のプレゼンテーションを行うために、三次元モデルを基に映像の作成方法なども学ぶ。	一級建築士事務所 インターコア
建築CAD・CG1	2次元・3次元CADを習得するとともに、最新の技術であるBIMも学び基礎から応用(シミュレーション)、周辺知識を学習する。	株式会社SEEZ
設計製図2	製図の基礎を終了し、通常授業との連携を関係付けて実施する。住宅課題を通して、人体寸法や、小空間の設計をはじめ、多くの事例と共に設計の基礎、広範な知識を身に付ける。	建築設計事務所 小石川建築/小石川土木
卒業制作	4年間の集大成としての設計課題を仕上げるために、調査・研究を行い、自らの設定した課題に対しての問題を解決する。また、BIMによるシミュレーションを活用し、可視化・ビジュアル化を図る。それ以外にも、実物大の模型、有名建築物の調査・研究、施工図・設備計画を行う。	国際ローヤル建築設計 一級建築士事務所
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。		
（2）研修等の実績 ①専攻分野における実務に関する研修等 研修名「テクノロジーカレッジ 建築設計科/建築学科 教員研修」 （連携企業等：LearningStudio_BIM&B-eIM） 期間：2017年8月1日（火） 対象：テクノロジーカレッジ 建築設計科/建築学科 教員 八王子キャンパスにて建築学科・建築設計科教員を対象に開催。 芝浦工業大学名誉教授 衣袋洋一氏講演「製図板のない建築設計教育とBIM教育」 手描きでなくBIMを用いて設計させることの意味、その成果などを学ぶことで、今後のBIM教育を確定させる上での方向性を再確認した。 ②指導力の修得・向上のための研修等		

研修名「テクノロジーカレッジ夏期教員研修 教育スキル向上とプレゼンテーション能力の向上」

(連携企業等：富士ゼロックス株式会社)

期間：2017年8月1日（火）

対象：テクノロジーカレッジ専任教員

学生への教授法の情報共有化をすると共にすぐれた教授法を各学科より紹介し、勉強会を行った。

中原教員が富士ゼロックス社と行った共創プロジェクトでの研修を踏まえて、アイデアソンへの取り組み方やコラボレーションへの繋げ方を講義した。また、各学科からも先進的な教授法や教育法の発表があり、様々研鑽を積む中で得られたIoT技術（電子・電気科）やタブレットを用いた授業法（自動車整備科）、品質管理への取り組み（応用生物学科）などの発表も同時に行われた。

(3) 研修等の計画 ①専攻分野における実務に関する研修等 研修名「Fusion 360」 (連携企業等：オートデスク株式会社) 期間：9月20日 (木) 対象：テクノロジーカレッジおよびデザインカレッジ 教員 先進的なICT技術の修得のため、3D CAD/CAM/CAEツールであるFusion360の講習を行う。 ②指導力の修得・向上のための研修等 研修名「中級者向けBIM講座」 (連携企業等：シーラカンスK&H、ペーパレススタジオジャパン株式会社) 期間：12月10日 (日)、12月17日(日) 対象：テクノロジーカレッジ 建築設計科／建築学科 教員 BIMを用いたハッカソンを行い、グループワークの中でコミュニケーション力向上、キャリアアップにつなげる 研修名「最新のバーチャル技術について (ICTを活用した都市モデル・ソリューション)」 (連携企業等：ダッソー・システムズ株式会社) 期間：9月7日 (火) 対象：テクノロジーカレッジ 建築設計科／建築学科 教員 シンガポールにて行われている「国土3D化計画」について、最新のICT技術や事例などの紹介、および次世代の技術を活用した取組を講演																									
4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係																									
(1) 学校関係者評価の基本方針 専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。 学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする																									
(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応 <table border="1"> <thead> <tr> <th>ガイドラインの評価項目</th><th>学校が設定する評価項目</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1) 教育理念・目標</td><td>(1)理念・目的・育成人材像</td></tr> <tr> <td>(2) 学校運営</td><td>(2)運営方針(3)事業計画(4)運営組織(5)人事・給与制度(6)意思決定システム(7)情報システム</td></tr> <tr> <td>(3) 教育活動</td><td>(8)目標の設定(9)教育方法・評価等(10)成績評価・単位認定等(11)資格・免許取得の指導体制(12)教員・教員組織</td></tr> <tr> <td>(4) 学修成果</td><td>(13)就職率(14)資格・免許の取得率(15)卒業生の社会的評価</td></tr> <tr> <td>(5) 学生支援</td><td>(16)就職等進路(17)中途退学への対応(18)学生相談(19)学生生活(20)保護者との連携(21)卒業生・社会人</td></tr> <tr> <td>(6) 教育環境</td><td>(22)施設・設備等(23)学外実習・インターンシップ等(24)防災・安全管理</td></tr> <tr> <td>(7) 学生の受入れ募集</td><td>(25)学生募集活動(26)入学選考(27)学納金</td></tr> <tr> <td>(8) 財務</td><td>(28)財務基盤(29)予算・収支計画(30)監査(31)財務情報の公開</td></tr> <tr> <td>(9) 法令等の遵守</td><td>(32)関連法令、設置基準等の遵守 (33)個人情報保護(34)学校評価(35)教育情報の公開</td></tr> <tr> <td>(10) 社会貢献・地域貢献</td><td>(36)社会貢献・地域貢献 (37) ボランティア活動</td></tr> <tr> <td>(11) 国際交流</td><td></td></tr> </tbody> </table> ※(10)及び(11)については任意記載。		ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目	(1) 教育理念・目標	(1)理念・目的・育成人材像	(2) 学校運営	(2)運営方針(3)事業計画(4)運営組織(5)人事・給与制度(6)意思決定システム(7)情報システム	(3) 教育活動	(8)目標の設定(9)教育方法・評価等(10)成績評価・単位認定等(11)資格・免許取得の指導体制(12)教員・教員組織	(4) 学修成果	(13)就職率(14)資格・免許の取得率(15)卒業生の社会的評価	(5) 学生支援	(16)就職等進路(17)中途退学への対応(18)学生相談(19)学生生活(20)保護者との連携(21)卒業生・社会人	(6) 教育環境	(22)施設・設備等(23)学外実習・インターンシップ等(24)防災・安全管理	(7) 学生の受入れ募集	(25)学生募集活動(26)入学選考(27)学納金	(8) 財務	(28)財務基盤(29)予算・収支計画(30)監査(31)財務情報の公開	(9) 法令等の遵守	(32)関連法令、設置基準等の遵守 (33)個人情報保護(34)学校評価(35)教育情報の公開	(10) 社会貢献・地域貢献	(36)社会貢献・地域貢献 (37) ボランティア活動	(11) 国際交流	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目																								
(1) 教育理念・目標	(1)理念・目的・育成人材像																								
(2) 学校運営	(2)運営方針(3)事業計画(4)運営組織(5)人事・給与制度(6)意思決定システム(7)情報システム																								
(3) 教育活動	(8)目標の設定(9)教育方法・評価等(10)成績評価・単位認定等(11)資格・免許取得の指導体制(12)教員・教員組織																								
(4) 学修成果	(13)就職率(14)資格・免許の取得率(15)卒業生の社会的評価																								
(5) 学生支援	(16)就職等進路(17)中途退学への対応(18)学生相談(19)学生生活(20)保護者との連携(21)卒業生・社会人																								
(6) 教育環境	(22)施設・設備等(23)学外実習・インターンシップ等(24)防災・安全管理																								
(7) 学生の受入れ募集	(25)学生募集活動(26)入学選考(27)学納金																								
(8) 財務	(28)財務基盤(29)予算・収支計画(30)監査(31)財務情報の公開																								
(9) 法令等の遵守	(32)関連法令、設置基準等の遵守 (33)個人情報保護(34)学校評価(35)教育情報の公開																								
(10) 社会貢献・地域貢献	(36)社会貢献・地域貢献 (37) ボランティア活動																								
(11) 国際交流																									
(3) 学校関係者評価結果の活用状況 教員の研修体制を整えて欲しいという意見があり、自発的な能力開発及び向上を目的として今年度新設した「学校法人片柳学園職員自己啓発支援制度」を活用していく。中途退学の理由として経済的理由が挙げられているが、ファイナンシャルプランナーの活用をしてはどうかとの意見から、自己啓発支援制度を利用した職員の資格取得を促し、学生へのサポート体制の充実を図る。また、学生へのSNSのマナー等に関しても指導を徹底していく。 教員の労働環境改善、メンタルケアなどサポート等の充実のため「ヘルスサポートセンター」等の学生および教員のサポート体制の確立を引き続き検討する。なお、昨年度から導入した教員の変形労働時間制度を活用し労働環境の更なる改善をはかる。																									

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会長 (セントラルエンジニアリング株式会社 グループマネージャー)	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	卒業生／IT企業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 事務局長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	地域関連
三井 隆裕	株式会社NVC(ヌーベルバーグカンパニー) 代表取締役	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	クリエイターズ 企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	ミュージック 企業等委員
才丸 大介	株式会社カオルデザイン 企画推進室 室長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	デザイン 企業等委員
鈴木 浩之	株式会社田中建設 取締役 建築部長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	テクノロジー 企業等委員
池田 つぐみ	NPO法人日本ストレッチング協会 理事	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	スポーツ 企業等委員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野循環器病院 事務長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	医療 企業等委員
宮崎 豊彦	八王子市私立保育園協会 会長 城山保育園 園長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	医療・保育 団体等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他() 平成30年9月15日

URL: <http://www.neec.ac.jp/announcement/28523/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。

また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2) 各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3) 教職員	教員・教員組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6) 学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7) 学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8) 学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9) 学校評価	学校評価、平成29年度の項目別の自己評価表
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <http://www.neec.ac.jp/announcement/28523/>

授業科目等の概要

(工科技術専門課程 建築学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			ス ポ ー ツ 実 習 1	様々なスポーツの実習を開講します。	1・ 後	30	1			○	○		○		
		○	ビ ジ ネ ス ス キ ル	自分の適性を理解し、社会人としての心構えについて学びます。	1・ 前	30	2	○				○	○		
○			外国語 1	テクノロジー分野の英語や中国語などの基礎を学びます。	1・ 前	30	2	○			○			○	
		○	海 外 デ ザ イ ン 研修 1	海外におけるデザイン動向を現地で体験・学習します。	1・ 通	30	1			○	○		○		
		○	教養学 1	放送大学の指定科目を学びます。	1・ 前	30	2	○			○		○		
		○	教養学 2		1・ 前	30	2	○			○		○		
		○	教養学 3		1・ 後	30	2	○			○		○		
		○	教養学 4		1・ 後	30	2	○			○		○		
○			建築計画 1	建築を計画し、デザインするための基礎知識に加え、バリアフリーなど必要とされている分野についても学びます。	1・ 前	30	2	○			○		○		
○			建築計画 2	住宅建築およびオフィス、店舗などの商業建築の計画手法について学びます。	1・ 後	30	2	○			○		○		
○			建 築 一 般 構 造 1	建築構造の種類、構造材の種類および木造建築の構造を中心に学びます。	1・ 前	30	2	○			○			○	
○			建 築 一 般 構 造 2	鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造などの構造を中心に学びます。	1・ 後	30	2	○			○		○		
○			構造力学 1	安全な建物を設計するための構造計算の基礎について学びます。	1・ 後	30	2	○			○		○		
○			建築生産 1	木造在来工法と鉄筋コンクリート造の施工方法について学びます。	1・ 後	30	2	○			○			○	
○			建築材料	木材、石材、コンクリート、金属、ガラスなどの材料特性について学びます。	1・ 前	30	2	○			○			○	
○			建 築 ・ イ ン テ リア入門	建築・インテリアの概念および建築倫理などについて幅広く学びます。	1・ 前	30	2	○			○		○		
○			建築設備	快適な空間づくりのために必要な設備の基本について学びます。	1・ 後	30	2	○			○		○		
○			設計製図 1	図面トレース、模型制作を通じて設計製図の基礎について習得します。	1・ 前	90	3			○	○		○		
○			設計製図 2	建築図面の機能と読み方、図法の種類について基礎的な事項を学ぶとともに設計製図の知識を独立住宅などの設計演習課題を通して学びます。建築設計、インテリア設計、構造・設備、施工それぞれの専門分野に応じた課題設定を行い分野ごとの図面に関する知識を習得します。	1・ 後	90	3			○	○		○		○

○		建築CAD 1	コンピュータの基礎的な操作と製図の基礎を習得します。	1・前	60	2			○	○			○	
○		建築CAD 2	2・3次元CADを活用し、平面図・立面図などの設計図の基礎的な作成方法を習得します。	1・後	60	2			○		○	○		
○		図学・基礎デザイン	デッサン、平面構成図法、パースの作成などを通して、造形的・色彩的センスを養います。	1・前	60	2			○	○			○	
		○ 建築演習 1	建築に関する総合的演習を行います。	1・前	30	1			○	○			○	
		○ 建築演習 2		1・後	30	1			○	○			○	○
		○ 福祉住環境コーディネーター対策	福祉住環境コーディネーター資格の試験に対応した演習問題を中心に組みます。	1・後	30	2	○			○			○	
○		スポーツ実習 2	様々なスポーツの実習を開講します。	2・後	30	1			○		○	○		
		○ 外国語 2	テクノロジー分野の英語や中国語などの基礎を学びます。	2・前	30	2	○			○			○	
		○ 海外デザイン研修 2	海外におけるデザイン動向を現地で体験・学習します。	2・通	30	1			○	○		○		
		○ 教養学 5	放送大学の指定科目を学びます。	2・前	30	2	○			○		○		
		○ 教養学 6		2・前	30	2	○			○		○		
		○ 教養学 7		2・前	30	2	○			○		○		
		○ 教養学 8		2・前	30	2	○			○		○		
		○ 教養学 9		2・後	30	2	○			○		○		
		○ 教養学 10		2・後	30	2	○			○		○		
		○ 教養学 11		2・後	30	2	○			○		○		
		○ 教養学 12		2・後	30	2	○			○		○		
○		建築計画 3	学校、図書館などの公共施設の計画手法について学びます。	2・前	30	2	○			○		○		
○		構造力学 2	構造的に安全な建物を設計するために、静定構造及び不静定構造の力学的仕組みについて学びます。	2・前	30	2	○			○			○	
○		建築生産 2	鉄骨構造やコンクリートブロック構造、建物の工事の流れや仕上げ工事について学びます。	2・前	30	2	○			○		○		
○		建築法規 1	建築を安全・快適に設計するための法規の基礎について学びます。	2・前	30	2	○			○			○	
○		建築法規 2	建築の大きさ・高さなどのルールや、建築士・建設業者が守るべき規則について学びます。	2・後	30	2	○			○		○		
○		建築史	建築様式を系統的に学び・美意識の変遷、デザインと建築技術の関係を理解します。	2・後	30	2	○			○		○		
○		環境工学	光、音・熱、空気などの室内環境に関わる基礎的な知識と建築計画への応用について学びます。	2・後	30	2	○			○		○		
○		建築積算	設計図書や仕様書の内容および各種経費などの積算・見積に関する基礎的な知識を学びます。	2・後	30	2	○			○		○		
		○ 施工管理技術者資格対策	2級施工管理技術検定試験の学科試験に対応した演習問題を中心に組みます。	2・前	60	4	○			○		○		
		○ 建築士資格対策	2級建築士試験に対応した演習問題を中心に組みます。	2・後	90	6	○			○			○	
○		設計製図 3	RC造・S造等の建築物の課題に取り組み、建築設計のコンセプトの作成、プランニング、プレゼンテーションなどの総合的な手法・技術を演習を通して学びます。計画、法規、構造、設備といった実務で必要な知識と設計手法を習得します。	2・前	90	3			○	○			○	

○		設計製図 4	2 年間学んだことを基礎に、都市、各種建築物などの設計を中心にまとめます。	2・後	90	3			○	○			○	
○		建築CAD 3	2・3 次元CADを活用し、実務的な建築設計図の作成方法を実習的に習得します。	2・前	60	2			○	○			○	○
○		建築CAD 4	CAD/CGソフトを使用し、3 次元モデルや映像を作成します。	2・後	60	2			○	○			○	
		○ 建築演習 3	建築に関する総合的演習を行います。	2・前	60	2			○	○			○	
		○ 建築演習 4		2・後	60	2			○	○			○	○
○		材料実験	主要な建築材料の力学的性質を実験により学びます。	2・前	30	1			○	○			○	
○		測量実習	距離・水準・角度などの測量の方法を習得します。	2・前	30	1			○		○	○		
		○ 建築設計実習 1	建築設計のコンセプトのまとめ方や表現技法などを演習を通じて身につけます。	2・前	60	2			○	○			○	
		○ 建築設計実習 2	建築設計のコンセプト、デザインを表現するためのプレゼンテーション技法を演習を通して習得します。	2・後	60	2			○	○			○	
		○ インテリア設計実習 1	インテリア設計のコンセプトのまとめ方や表現技法などを演習を通して身につけます。	2・前	60	2			○	○			○	
		○ インテリア設計実習 2	インテリア設計のコンセプト、デザインを表現するためのプレゼンテーション技法を演習を通して習得します。	2・後	60	2			○	○			○	
		○ 建築構造・設備実習 1	構造設計に必要な基礎知識、照明・配線など電気設備の基礎について学びます。	2・前	60	2			○	○			○	
		○ 建築構造・設備実習 2	建物を建てるために必要な構造図面、設備図面の読み方、描き方について習得します。	2・後	60	2			○	○			○	
		○ 建築施工実習 1	建築工事のプロセスや建築現場見学を通して、建築施工の技術を習得します。	2・前	60	2			○	○			○	
		○ 建築施工実習 2	建築工事のプロセスや現場見学を通して、建築施工の応用技術を学びます。	2・後	60	2			○	○			○	
		○ 海外デザイン研修 3	海外におけるデザイン動向を現地で体験・学習します。	3・通	30	1			○	○		○		
		○ 教養学13	放送大学の指定科目を学びます。	3・前	30	2	○			○		○		
		○ 教養学14		3・前	30	2	○			○		○		
		○ 教養学15		3・前	30	2	○			○		○		
		○ 教養学16		3・前	30	2	○			○		○		
		○ 教養学17		3・前	30	2	○			○		○		
		○ 教養学18		3・前	30	2	○			○		○		
		○ 教養学19		3・前	30	2	○			○		○		
		○ 教養学20		3・前	30	2	○			○		○		
		○ 教養学21		3・前	30	2	○			○		○		
		○ 教養学22		3・前	30	2	○			○			○	
		○ 教養学23		3・後	30	2	○			○			○	
		○ 教養学24		3・後	30	2	○			○		○		
		○ 教養学25		3・後	30	2	○			○		○		
		○ 教養学26		3・後	30	2	○			○		○		
		○ 教養学27		3・後	30	2	○			○		○		
○		高度建築計画	計画原論、都市計画、建築史の分野について、さらに深く専門的に学びます。	3・後	30	2	○			○		○		
○		高度構造力学	不静定構造について、ラーメンの解析を中心に学びます。	3・後	30	2	○			○		○		

○		高度建築法規	建築関係法規の単体規定、集団規定、関連法規について、その趣旨を理解した上でより深く学びます。	3・後	30	2	○				○	○		
○		高度資格対策1	建築に関連する資格について学びます。	3・後	30	2	○				○	○		
		○ 建築計画特論	2級建築士の学科試験の計画分野について演習を中心に学びます。	3・前	60	4	○				○	○		
		○ 建築構造特論	2級建築士の学科試験の構造分野について演習を中心に学びます。	3・前	60	4	○			○			○	
		○ 建築法規特論	2級建築士の学科試験の法規分野について演習を中心に学びます。	3・前	60	4	○			○			○	
		○ 建築士受験対策	2級建築士試験に対応した演習問題を中心に取り組みます。	3・前	30	2	○			○			○	
		○ 建築環境・設備特論	2級建築士の学科試験の環境・設備分野について演習を中心に学びます。	3・前	30	2	○			○			○	
		○ 建築生産特論	2級建築士の学科試験の施工分野について演習を中心に学びます。	3・前	60	4	○			○			○	
○		設計計画1	実践的な課題を通して、総合的に建築の計画、設計手法について学びます。	3・前	60	2			○	○			○	○
○		設計計画2		3・後	60	2			○	○			○	
○		建築CAD・CG1	2・3次元CAD、建築インテリアCGを活用し、基礎から応用への技法を学びながら設計図面を作成します。	3・前	60	2			○	○			○	○
○		建築CAD・CG2		3・後	60	2			○	○			○	
○		特別演習1	企業と連携する等、業界と結び付いた演習により、高度な専門技術を修得します。	3・前	30	1			○	○			○	
○		特別演習2		3・後	60	2			○	○			○	
		○ 実務演習1	建築に関する実際の仕事に即した学習により、高度な専門技術を修得します。	3・前	300	10			○	○			○	
		○ 実務演習2		3・後	150	5			○	○			○	
		○ インターンシップ1	企業での就業体験を通じて実践的な知識や技術、仕事に対する姿勢などを学びます。	3・前	300	10			○	○			○	
		○ インターンシップ2		3・後	150	5			○	○			○	
		○ 海外デザイン研修4	海外におけるデザイン動向を現地で体験・学習します。	4・通	30	1			○	○		○		
		○ 教養学28	放送大学の指定科目を学びます。	4・前	30	2	○			○		○		
		○ 教養学29		4・前	30	2	○			○		○		
		○ 教養学30		4・前	30	2	○			○		○		
		○ 教養学31		4・前	30	2	○			○		○		
		○ 教養学32		4・前	30	2	○			○		○		
○		高度建築設備	大規模な施設や特殊な建築物に应用される設備について学びます。	4・前	30	2	○			○		○		
○		高度建築生産	大規模建築物に应用される建築生産について学びます。	4・前	30	2	○			○		○		
○		高度資格対策2	建築実務に必要な資格について学びます。	4・前	30	2	○			○		○		
○		高度資格対策3	建築実務に必要な資格についてさらに高度に学びます。	4・後	30	2	○			○		○		
○		設計計画3	実践的な課題を通して、総合的に建築の計画、設計手法について学びます。	4・前	60	2			○	○		○		
○		建築CAD・CG3	各種ソフトを使用してプレゼンテーション図面を作成することを学びます。	4・前	60	2			○		○	○		
○		CAD・CG制作	プレゼンテーション図面を作成する様々な手法について学びます。	4・後	60	2			○		○	○		

○		特別演習 3	企業と連携する等、業界と結び付いた演習により、高度な専門技術を修得します。	4・前	60	2			○		○	○		
○		特別演習 4		4・後	30	1			○	○		○		
		○ 実務演習 3	建築に関する実際の仕事に即した学習により、高度な専門技術を修得します。	4・前	150	5			○	○			○	
		○ 実務演習 4		4・後	150	5			○	○			○	
		○ インターンシップ 3	企業での就業体験を通じて実践的な知識や技術、仕事に対する姿勢などを学びます。	4・前	150	5			○	○			○	
		○ インターンシップ 4		4・後	150	5			○	○			○	
○		卒業制作	4年間学んだことを基礎に、都市、各種建築物等の設計を中心にまとめます。	4・後	180	6			○	○			○	○
合計			118 科目	6120 単位時間 (280 単位)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業時に必修科目2340時間(104単位)取得および選択科目を1230時間(49単位)以上取得し、合計3570時間(153単位)以上取得すること		1 学年の学期区分	2 期
		1 学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。